

この度の政務調査は、高松市における中心市街地活性化のその後の調査から近隣自治体で V 字回復している自治体病院として四国地方でも目を見張る徳島市立病院を調査してまいりました。当市の新市立病院の経営改善に大いに参考となりましたので報告させていただきます。

徳島市民病院の経営改善に向けた取り組みについて

理念 思いやり、信頼、安心

診療科 35 科 病床数 335（一般 271 床、回復期リハビリ 40 床緩和 24 床

経営計画の策定状況

経営改善計画 H18～H28 改革プラン H21～H23 運営目標の改定 H25～H28 経営強化プラン H27～H31 経営強化プラン R3～R4

急性期医療の特化

〔背景〕 地方公営企業法全部適用 H18 年 4 月により「病院事業管理者」を新たに迎えて病院改革に取り組んだこと

新病院の建設 H20 年 1 月新病院開院控えていたこと

〔スローガン〕 高単価で高回転の入院医療の提供

具体的な取り組み

外来患者中心の医療から、入院患者中心の医療に方向転換＞限り
有る資源（医師の労力）を、診療単価の高い入院診療に割り当てる。

入院期間（平均在院日数の）短縮＞急性期を脱した患者を地域連携
の活性化でかかりつけ医に逆紹介

DPC 対象病院へ転換（H20、4）＞入院診療単価の上昇

がんセンター設置

H27年4月（がんセンター）開設

具体的取組

チーム医療の推進

キャンサポートの強化

腫瘍内科などの専門外来の設置

緩和ケア病棟の整備

安心カードの発行と連用

以上調査してまいりましたが現在の岩見沢市に馴染むところとかなりの高見をめざさなくてはならない部分がありますが、経営とは
厳しいということを理解してまいりました。

高松市丸亀町商店街再開発

商店街は小企業が集まって形成され、そこに暮らす人々の為に商品やサービスを提供してきました。大企業の利点である大規模流通や生産の仕組みは持てませんが、ひとつの町として各店が助け合ってきた伝統があります。

丸亀町商店街再開発は、一定の共同化によってより合理的な土地利用を行い、ある程度の規模の商業床と魅力的な都市空間を作り出す必要性、そして、商店街全体をひとつのショッピングセンターと見立て全体のレイアウトを考えることが必要であるとして、平成 10 年に高松丸亀町まちづくり株式会社（第三セクター）を設立し、再開発が進められて来たところです。

平成 16 年に都市再生特別地区が決定され、平成 18 年(2006 年)にドーム広場/高級ブティック/三越そして大型書店/マンションからなる再開発ビル(A 街区)が完成してから 11 月で 17 年を迎えるところです。

丸亀町商店街の再開発は、全長 470m の商店街を A 街区から G 街区の 7 つの街区にゾーニングし、すべての街区を対象とした再開発を段階的に行っています。

さらには、C 街区には横左右に大工町地区と摩屋町地区を設置し、再開発を行っています。美・健康・ファッションからなる B・C 街区においては、平成 19 年に戦略補助金が採択され平成 22 年 3 月に建設工事が完了しました。

さらには、広場・ホテル・大型マンションが入る G 街区においては、平成 22 年に権利変換計画が認定となり、解体・着工、平成 24 年に再開発ビルが完成しました。

大工町地区・摩屋町地区の再開発についても令和 2 年に権利変換計画が認可され、来年 3 月に再開発ビルが完成予定となっています。

D・E・F のそれぞれの街区についても方向性が出来ているようで、丸亀町商店街はさらに進化し続けています。

丸亀町再開発事業は、「人が住み、人が集うまち」を目指して構想から約 20 年かけて取り組んできた事業です。さらに進む事業に感心する次第です。

まちづくりにおいて、これだけ長年にわたり再開発が継続されているまちづくりは、全国を見てもなかなか無いように思います。

さらに、そのまちづくり会社に高松市が参入していないことにも驚かされます。

高松丸亀町まちづくり会社は行政からの出資比率を 5 % とした民間主導型の第 3 セクターです。

すべて民間による市民の為に再開発事業という仕組みです。全国初の試みです。

これからも高松市丸亀町再開発事業を見守っていきたいと思ひ、少しでも岩見沢市の活性化に繋げていければと考えているところです。